



戦争と暮らし 能登島では(2) 食べられるお米の量

2020. 8. 12

太平洋戦争がはじまる昭和16年(1941年)になると、お米は配給制になりました。配給制とは、品物が好きなだけ手にはいるのではなく、きめられた分だけ手に入るようにしたことです。お米だけでなく、生活にいるものは、ほとんど配給制になりました。戦争で物がすくなくなったためです。*このころ、10歳だった人は、今90歳ぐらいです

大人の男の人は、1日に米2合7勺(345グラム・カップで約3杯)、子どもは1合4勺(210グラム・カップで約1杯半)ときめられていました※。能登島は米をたくさん作っていたので好きなだけ食べられたと思うかも知れませんが、それはできませんでした。

戦争が長く続くと、食べ物がどんどん少くなり、米のかわりに、イモや麦、豆などをかわりにたべました。大根や大根の葉、さつまいものつるなどをませた雑炊やおかゆを食べていたということです。いまのように、おかしや飲み物でもすきなだけ、食べたり飲んだりできなかつたのですね。(つづく)

※「米穀配給通帳」による

参考にした本

「能登島のれきし」

(平成2年 能登島町役場発行)

くわしいことは(1)に書きました

お米を買うとき、この紙をもっていきます。
いつ、どれだけ買ったか書かれています。
(静岡県のものです Webページより)